

中国人日本語学習者における否定疑問文の習得に関する研究

邴胜 大连外国语大学日本語学院

1 研究目的

- 1) 否定疑問文全般に関する学習者の習得状況を明らかにする。
- 2) 場面に合わせて、自分の表現意図を表すのに否定疑問文を運用できるかどうか。

2 先行研究と本研究の位置付け

2.1 否定疑問文に関する先行研究

2.1.1 否定疑問文の分類・音調 田野村(1988)

否定疑問文を主たる述語が否定辞「ない」を伴う疑問文と定義する。

| | | | |
|----|---------------------------|----|---------------------|
| 甲種 | [名詞・用言]ではないか ₁ | ↓ | (例) 何するんだ。危ないじゃないか。 |
| 乙種 | [名詞]ではないか ₂ | ↑ | どうも犯人は谷村じゃないか? |
| | [形容詞]ないか ₂ | ↑ | この靴では少し小さくないか? |
| | [動詞]ないか ₂ | ↑ | あの絵傾いてないか? |
| | [名詞]ではないか ₃ | ↑↓ | そうか、犯人は谷村じゃないか。 |
| | [形容詞]ないか ₃ | ↑↓ | えっ? これがおいしくないか? |
| | [動詞]ないか ₃ | ↑↓ | 絶対誰にも話さないか? |

甲種 ではないか₁: 発見した事態を驚きなどの感情を込めて表現したり、ある事柄を認識するよう相手に求めたりするもの。非分析的

乙種 (では) ないか₂: 推定を表現する。話し手は前の表現内容を否定しておらず、認めるほうに傾いている。非分析的

(では) ないか₃: 「ない」が否定辞本来の性格を発揮する。分析的

2.1.2 否定疑問文の「傾き」 安達(1999)

- ・否定疑問文 真実であるという肯定の傾き
- ・否定疑問文と「のではないか」は情報要求文から、情報提供文に移行
- ・傾きを持つ否定疑問文と「のではないか」は不確かさの表現

2.1.3 「じゃないか」

安達 (1999) 聞き手の知識の[活性化](#)

蓮沼 (1993) 談話マーカー 固有的用法→認識生成のアピール

派生的用法→ 共通認識の喚起 認識形成の要請

2.1.4 本研究の立場

- ・「じゃないか」と「んじゃないか」を一語化されたもの
- ・否定疑問文と「んじゃないか」文は不確かさの表現
- ・「じゃないか」は談話標識 (発見・非難・評価) として機能

2.2 否定疑問文に関する習得研究

家村 (1997) は日本にいる中国人日本語学習者の習得状況を学習者の日本滞在期間と関連づけて分析したが、中国語の干渉の問題に言及しなかった。

2.3 本研究の位置付け

海外の日本語学習者に限定 中国語の干渉の問題も含めて、否定疑問文の習得上の問題点を探って

みる。

3.1 調査対象 大連外国語大学の中级学習者 103 名と上級学習者 104 名 日本語母語話者 56 名

3.2 調査期間 2017 年 5 月－6 月

3.3 調査の内容と項目

テストⅠ 4肢選択テスト 習得状況考察。 テストⅡ タスク完成テスト 運用状況考察。

補足的調査：音調チェックや表現意図・文意の理解

4 分析方法

4.1 枠組み：田野村(1988)安達(1999)の分類と家村（1997）の調査項目を参考にし、更に予備調査の結果に基づいて、下記の枠組みを使うことにする。

| 機 能 | | 形 態 |
|-------------|-----|-----------------------------|
| 否定命題真偽の問いかけ | A | N じゃない/V ない/A くない+ (の) か? ↑ |
| 不確かさ | B-1 | N (なん) + じゃないか ↑ |
| | B-2 | V/A く+ ないか ↑ |
| | B-3 | V/A+ ん じゃないか ↑ |
| 談話標識 | C | N/V/A+ じゃないか ↓ |

・日本語母語話者の傾向に近づくと習得しやすいと見なす。

4.2 手順

4.2.1 テストⅠ 4肢選択テスト

各問題の正答率を計算 ⇒ 機能別に中上級学習者の正答率を比較、傾向をみる。

⇒ 正答以外の選択傾向を機能項目ごとに記述し、原因を考察。

4.2.2 テストⅡ タスク完成テスト

日本語母語話者と学習者の否定疑問文使用率を機能別に整理、テストⅠの結果と対照する。

⇒ 否定疑問文以外の適切な表現の使用率・傾向

5 結果及び考察

5.1 テストⅠの結果と考察

5.1.1 テストⅠ (否定疑問文の正答率%)

| A | | | B-1 | | | B-2 | | | B-3 | | | C | | | | | | | |
|------|-------------|--------|--------|------|-------------|--------|--------|------|-------------|--------|--------|------|-------------|--------|--------|------|------|------|------|
| | 日 本 人 | 上 級 | 中 級 | | 日 本 人 | 上 級 | 中 級 | | 日 本 人 | 上 級 | 中 級 | | 日 本 人 | 上 級 | 中 級 | | | | |
| 問 2 | 100 | 99 | 98.1 | 問 3 | 94.5 | 50.0 | 31.1 | 問 7 | 89.1 | 11.5 | 24.3 | 問 1 | 100 | 62.5 | 45.6 | 問 25 | 96.4 | 61.5 | 52.4 |
| 問 23 | 100 | 80.8 | 60.2 | 問 9 | 100 | 64.4 | 38.8 | 問 17 | 100 | 48.1 | 35.9 | 問 11 | 92.7 | 59.6 | 36.9 | 問 4 | 94.5 | 35.6 | 33 |
| 問 6 | 100 | 82.7 | 71.8 | 問 16 | 96.4 | 55.8 | 39.8 | 問 10 | 100 | 22.1 | 32.0 | 問 18 | 96.4 | 59.6 | 39.8 | 問 14 | 89.1 | 27.9 | 22.3 |
| 問 21 | 100 | 78.8 | 61.2 | | | | | 問 13 | 98.2 | 37.5 | 32.0 | 問 22 | 90.9 | 78.8 | 56.3 | 問 12 | 96.4 | 38.5 | 32.0 |
| 問 15 | 100 | 93.3 | 83.5 | | | | | 問 24 | 100 | 34.6 | 22.3 | 問 8 | 98.2 | 76.9 | 63.1 | 問 19 | 96.4 | 40.4 | 35.9 |

結論：1、全機能項目において、学習段階があがるに従って習得が進んでいる。

2、A 機能は中級段階でも習得されている。

3、B-2 項目、C 機能は、中上級にとって共に習得困難な項目である。

5.1.2 考察

否定疑問文以外の選択状況

B-1 肯定疑問文選択率%

| 問題番号 | 3 | | 9 | | 16 | |
|-------|------|------|------|------|------|------|
| 学習レベル | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 |
| 肯定疑問文 | 40.7 | 24.0 | 30.1 | 21.2 | 46.6 | 42.3 |

※平均 中級 40.1 上級 30.2

B-2 の肯定・じゃないかの選択率%

| 問題番号 | 7 | | 17 | | 10 | | 13 | | 24 | |
|-----------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 学習レベル | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 |
| 肯定疑問文 | 25.2 | 3.8 | 49.5 | 35.6 | 17.5 | 13.5 | 30.1 | 20.2 | 39.8 | 33.7 |
| V/A じゃないか | 37.9 | 74 | 5.8 | 7.7 | 45.6 | 62.5 | 28.2 | 26.0 | 26.2 | 28.8 |

B-3 「じゃないか」の選択率%

| 問題番号 | 1 | | 11 | | 18 | | 22 | | 8 | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|
| 学習レベル | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 |
| 肯定疑問文 | 18.4 | 7.7 | 13.6 | 8.7 | 4.8 | 6.8 | 11.7 | 6.7 | 6.8 | 3.8 |
| V/A じゃないか | 32.0 | 27.9 | 39.8 | 27.9 | 45.6 | 29.8 | 17.5 | 8.7 | 22.3 | 16.3 |

C 「んじゃないか」の選択率%

| 問題番号 | 25 | | 4 | | 14 | | 12 | | 19 | |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 学習レベル | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 | 中級 | 上級 |
| んじゃないか | 35.0 | 31.7 | 48.5 | 51.9 | 32.0 | 33.7 | 45.6 | 31.7 | 46.6 | 49.0 |

・肯定疑問文はレベルが上がるにしたがって減少

「じゃないか」と「んじゃないか」の混同は中上級間の差があまりない。

・B機能において、肯定疑問文の選択率が高い。→ 母語の影響 大西（1993）

B、C機能において、「じゃないか」と「んじゃないか」が混同している。→ 初級からのインプットが少ない。

5.2 テストⅡの結果と考察

5.2.1 テストⅡの否定疑問文使用率

| A | | | B | | | C | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 日本人 | 上級 | 中級 | | 日本人 | 上級 | 中級 | | 日本人 | 上級 | 中級 |
| 問 5 | 100 | 75 | 78.6 | 問 1 | 73.2 | 9.6 | 6.8 | 問 3 | 76.8 | 21.2 | 16.5 |
| 問 8 | 73.2 | 31.7 | 20.4 | 問 4 | 91.1 | 26 | 20.4 | 問 7 | 78.6 | 26.9 | 16.5 |
| 問 14 | 80.4 | 21.2 | 28.2 | 問 6 | 73.2 | 25 | 15.5 | 問 10 | 71.4 | 27.9 | 21.4 |
| 問 17 | 100 | 56.7 | 43.7 | 問 11 | 82.1 | 13.5 | 10.7 | 問 13 | 75 | 17.3 | 12.6 |
| | | | | 問 15 | 83.9 | 10.6 | 7.7 | 問 16 | 78.6 | 10.6 | 9.7 |

A機能の問 8、14 は否定疑問文使用率がテスト I より低い。といかけの疑問文を使用

B機能の問 4、6 は 2 割、後は 1 割前後。

C機能は 1 割から 2 割の使用率、相対的に高い。

全体的にテストⅡの否定疑問文使用率はテストⅠの選択率より低い。

5.2.2 考察

テストⅡの否定疑問文以外の適切な各表現の比率（問題1を例に）

数字は人数 %は使用率 *は適切な表現 無印は不適切な表現

| 番号 | 機能 | 例 | 表現類型 | 形式 | 中級 | % | 上級 | % | 日本人 | % |
|-----|-----------|------------------|---------|---------------|----|------|-----|------|-----|------|
| 問題1 | 不確かさ ① | 部屋にいない？/いるんじゃない？ | *否定疑問文 | *～ない？/～んじゃない？ | 7 | 6.8 | 10 | 9.62 | 41 | 73.2 |
| | | 部屋にいるかな。 | *疑い | *かな | 9 | 8.74 | 25 | 24 | 1 | 1.8 |
| | | 部屋にいるかもしれない。 | *蓋然性判断 | *かも/だろう | 54 | 52.4 | 42 | 40.4 | 12 | 21.4 |
| | | 部屋にいるようだ。 | *証拠性判断 | *ようだ | 1 | 0.97 | 5 | 4.81 | | |
| | | たぶん部屋にいる。 | *副詞 | *多分～ | 3 | 2.91 | 5 | 4.81 | 2 | 3.6 |
| | | 部屋にいると思う。 | *と思う。 | *と思う | 8 | 7.77 | 9 | 8.65 | | |
| | | 部屋にいる。 | 断言 | | 3 | 2.91 | 1 | 0.96 | | |
| | | 分からない。 | 断定回避 | | 3 | 2.91 | 1 | 0.96 | | |
| | | 部屋にいるか？ | 肯定疑問 | | 3 | 2.91 | | 0 | | |
| | | 部屋にいるじゃない？ | 誤用じゃないか | | 2 | 1.94 | 3 | 2.88 | | |
| | | 部屋にいるそうだ。 | 伝聞 | | 1 | 0.97 | 0 | 0 | | |
| | | 他 | 意味不明 | | 9 | 8.74 | 2 | 1.92 | | |
| | | 無 | 無回答 | | | 0 | 1 | 0.96 | | |
| | | 計 | | | | 103 | 100 | 104 | 100 | 56 |

※B機能（不確かさ） 蓋然性判断・疑いの表現・「と思う」などが使用されている。

考えられる原因：・環境：教室場面で教科書に頼って、先に導入した項目は定着がいい。

・インプット：中国人教師、自然なインプットが少ない。日本語の様々なバラエティに触れることもない 学習した項目を繰り返し使用

・コミュニケーション：会話は実際の目的を持ったものでない 形式と機能との関係を理解することが出来ない 実際の言語の使用場面で適切な表現が使用できない。

参考文献（一部のみ）：

安達太郎(1999)『日本語疑問文における判断の諸相』 くろしお出版

田野村忠温(1991)「疑問文における肯定と否定」『国語学』164

蓮沼昭子(1995)「対話における確認行為 「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」仁田義雄編『複文の研究（下）』くろしお出版

胡德明(2009)「対話における確認行為「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」宁夏大学学报(人文社会科学版)第31卷第6期

范 峥(2011) 从“否定疑问句”看日语表达方式的特点『外语论坛』第35期

杨海茹(2012)「否定疑问句“ではないか”的语用功能分析」『嘉兴学院学报』第24卷第5期

許夏玲(2017)「勧誘の場面で用いられる否定疑問文はなぜポライトな表現になるのか」『日本学刊』第20号東京学芸大学留学生センター